

（仮称）公共ホールの最適化に向けた取組方針案について

【報告事項】

(仮称) 公共ホールの最適化に向けた取組方針案 ～これまでの検討のあらまし～

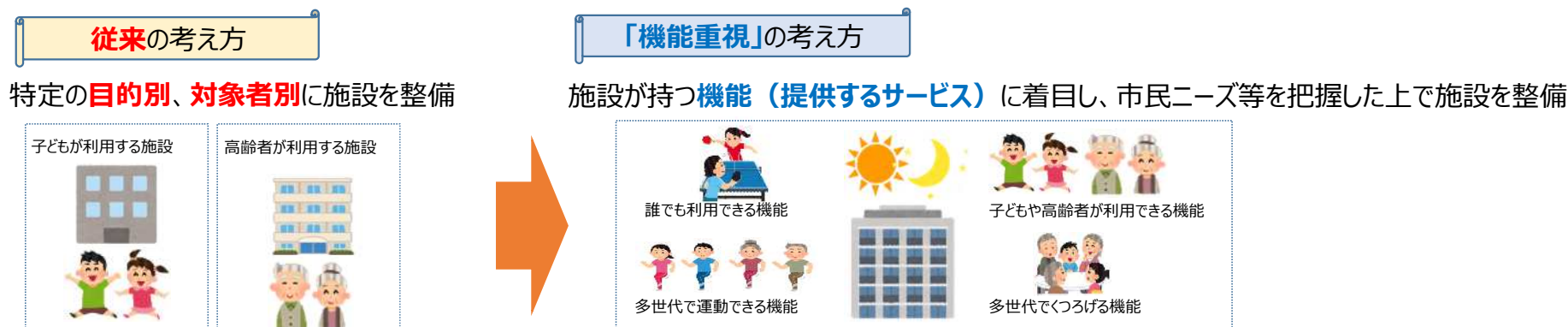
●資産保有の最適化の取組について

(資料「(仮称) モデル4 地域における資産保有の最適化に向けた取り組み方針について」から抜粋)

(1) 資産マネジメント第3期実施方針の基本的な考え方

- 将来世代の負担が重ならないよう、**公共施設の保有総量を適切に管理**することが必要
- 資産マネジメント第3期実施方針**を策定し、「**機能重視**」の考え方に基づく取組と、**資産保有の最適化**を重点的に推進
- これまで重点的に取り組んでいた施設の長寿命化については、資産保有の最適化を踏まえた上で取組を継続

(2) 「機能重視」の考え方に基づく取組



(3) 資産保有の最適化の取組

利用状況や将来の利用想定等を踏まえ、**広域的な観点**に基づき、**機能のあり方の整理**を行い、**施設の適正配置**を図るものであり、主に次の2つの視点で検討を実施

➤ 地域ごとの資産保有の最適化検討

公共施設、人口動態、地域課題などの**地域ごとの状況**を踏まえた**施設の適正配置**を行い、**質の高い市民サービスを安定的に提供**

※「地域」の単位には、様々な考え方があるが、市民に馴染みのある単位であることや、広域的な観点での検討を行うためには一定の規模が必要であることから、複数の中学校区を基本単位とし、検討を進めていく。

➤ 機能ごとの資産保有の最適化検討

ホールの適正配置など、同一機能を有している様々な**施設機能の適正配置**を行い、**質の高い市民サービスを安定的に提供**

●資産保有の最適化の進め方

■地域ごとの資産保有の最適化検討

市内を**19地域に仮設定**し、優先的に検討を行う
モデル4 地域を選定

改修時期を見据えながら、複合化等の検討に取り組む施設の決定
(モデル4 地域における最適化の取組方針)

■機能ごとの資産保有の最適化検討

各施設が持つ**同一機能に着目**し、全市・地域
単位双方の視点で適正配置を検討

ホール機能に着目した最適化検討を実施
(本方針で取組方針を示すもの)

●公共ホールの最適化におけるポイント

- ・公共ホールの最適化を進めるにあたっては、併存するホール以外の機能の最適化も検討が必要
⇒**ホール機能は広域的なエリア内での最適化を基本**とし、**ホール以外**の諸室は**モデル地域内での最適化を基本**とする。
- ・公共ホール機能の最適化にあたっては、施設の**更新時期を見据えながら**、複合化等の取組を進める。

令和4年8月

公共ホールのあり方検討にあたっての基本的な考え方

令和5年8月

公共ホールのあり方【検討の進め方】

令和7年1月

公共ホールのあり方を踏まえた検討状況（中間報告）【課題施設の抽出結果】
（能楽堂、市民プラザ、国際交流センター、男女共同参画センター、幸市民館）

令和7年11月公表予定

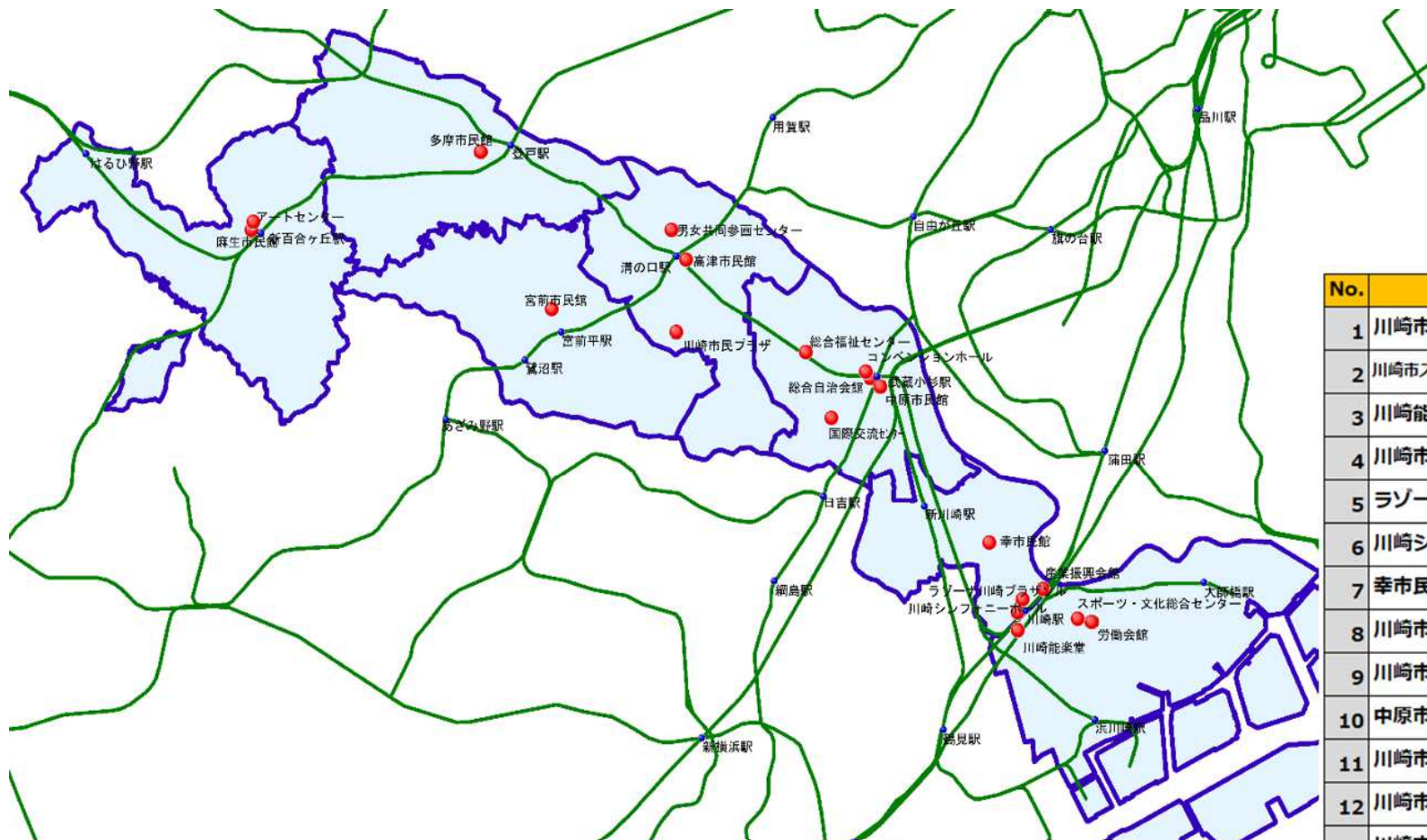
(仮称) 公共ホールの最適化に向けた取組方針案

<取組方針のポイント>

- ①公共ホールを有する課題施設から他施設へのホール機能に係る需要移転の可能性
- ②最適化に向けた今後の取組の進め方

(仮称) 公共ホールの最適化に向けた取組方針案 ～これまでの検討のあらまし～

- ・川崎市には、**公共ホールを所有する施設が19施設存在**しています。
- ・今後の人口減少等を見据え、**ホール機能に着目して、従来の施設配置の考え方を再検討**しています。



No.	正式名称	築年数	定員
1	川崎市立労働会館	43	762
2	川崎市スポーツ・文化総合センター	7	2,013
3	川崎能楽堂	39	148
4	川崎市産業振興会館	37	478
5	ラゾーナ川崎プラザソル	18	200
6	川崎シンフォニーホール	21	1,997
7	幸市民館	45	840
8	川崎市総合自治会館	4	200
9	川崎市国際交流センター	30	264
10	中原市民館	16	375
11	川崎市コンベンションホール	7	960
12	川崎市総合福祉センター	35	923
13	川崎市民プラザ	46	489
14	高津市民館	27	700
15	川崎市男女共同参画センター	51	850
16	宮前市民館	40	910
17	多摩市民館	28	908
18	麻生市民館	45	1,010
19	川崎市アートセンター	17	195



川崎シンフォニーホール



男女共同参画センター

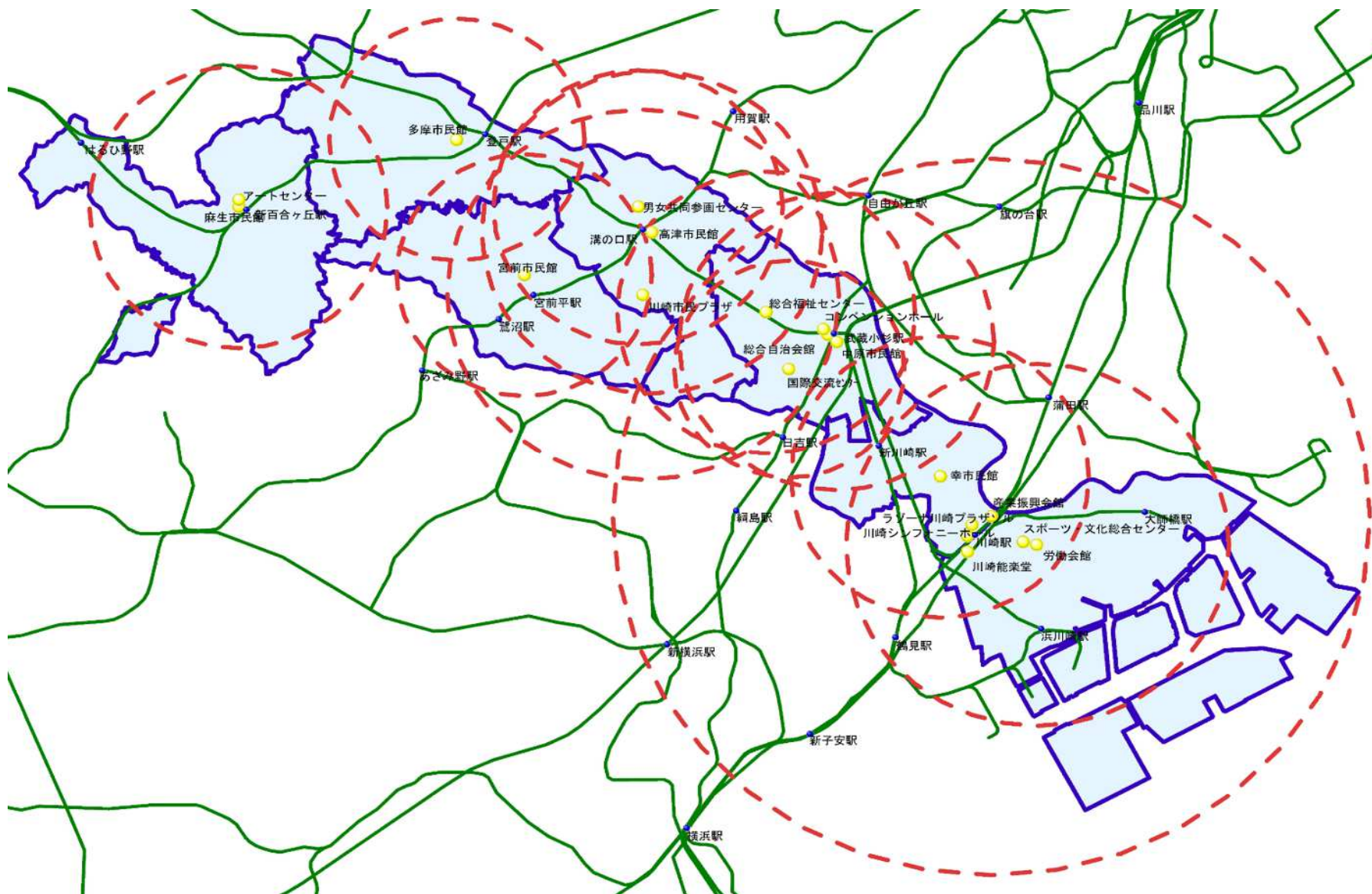


麻生市民館

（仮称）公共ホールの最適化に向けた取組方針案 ～これまでの検討のあらまし～

R5.8 公共ホールのあり方

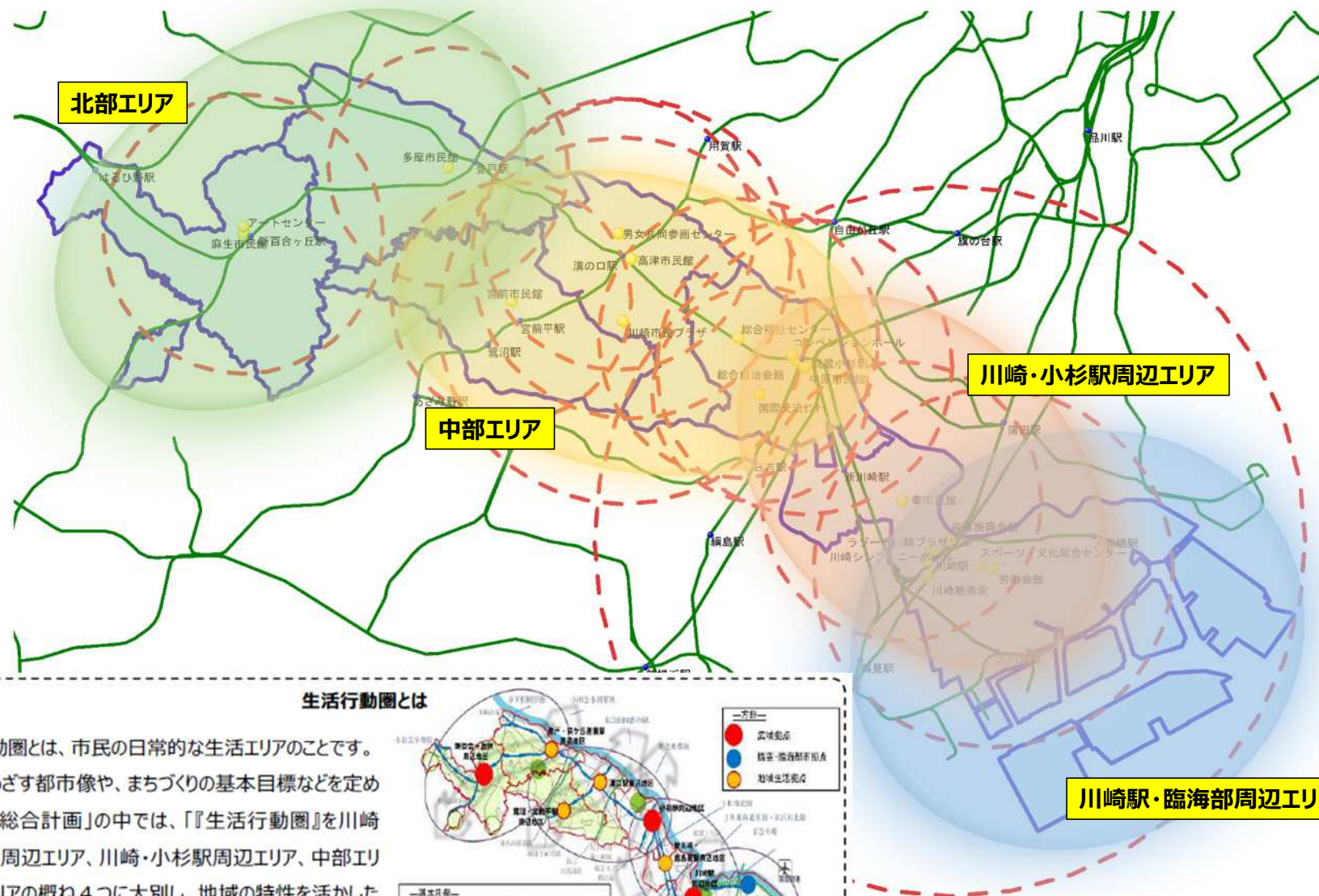
- ・施設配置の再検討にあたっては、**従来の各ホールの利用者を他のホールに案内**できるように、各ホールの利用者（利用団体の代表者）の居住エリアを分析しました。
- ・各ホールの利用者（利用団体の代表者）の5割が居住するエリアは以下のようになっています。



(仮称) 公共ホールの最適化に向けた取組方針案 ～これまでの検討のあらまし～

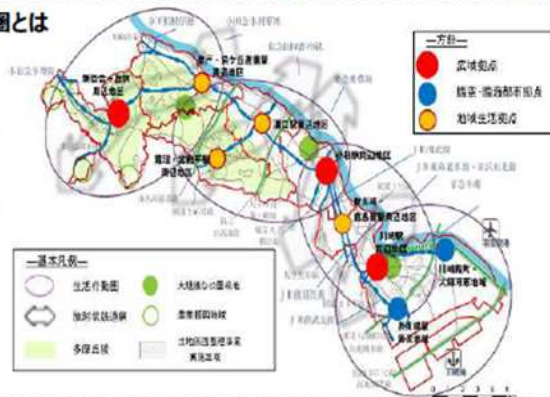
R5.8 公共ホールのあり方

- ・また、各ホールの利用者の5割が居住するエリアと、本市における「**生活行動圏**」を**重ね合わせる**と以下のようになります。
- ・利用者の居住エリアや交通アクセス手段等を踏まえ、**ホール機能に着目した施設配置の再検討は、生活行動圏内を基本とする**ことにしました。



生活行動圏とは

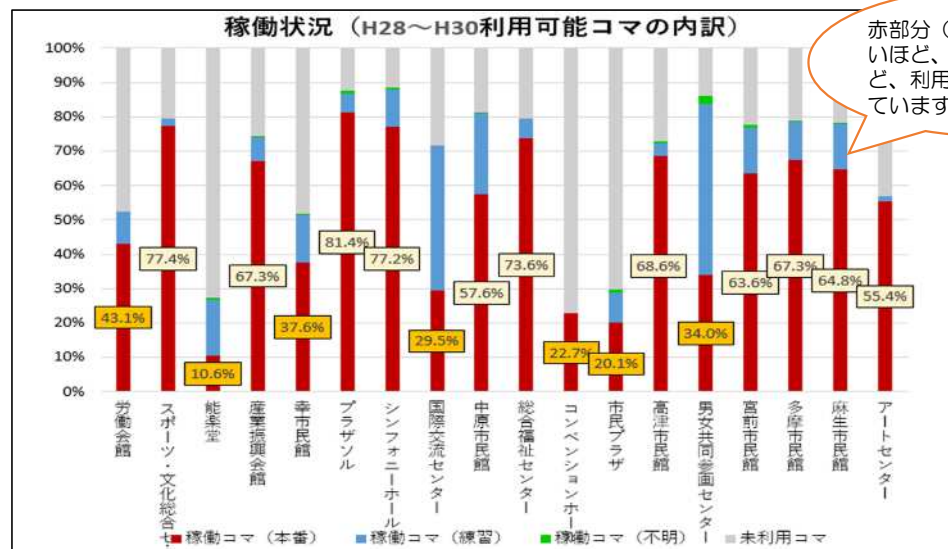
生活行動圏とは、市民の日常的な生活エリアのことです。
本市がめざす都市像や、まちづくりの基本目標などを定める「川崎市総合計画」の中では、「『生活行動圏』を川崎駅・臨海部周辺エリア、川崎・小杉駅周辺エリア、中部エリア、北部エリアの概ね4つに大別し、地域の特性を活かしたまちづくりを進めることが重要」としています。



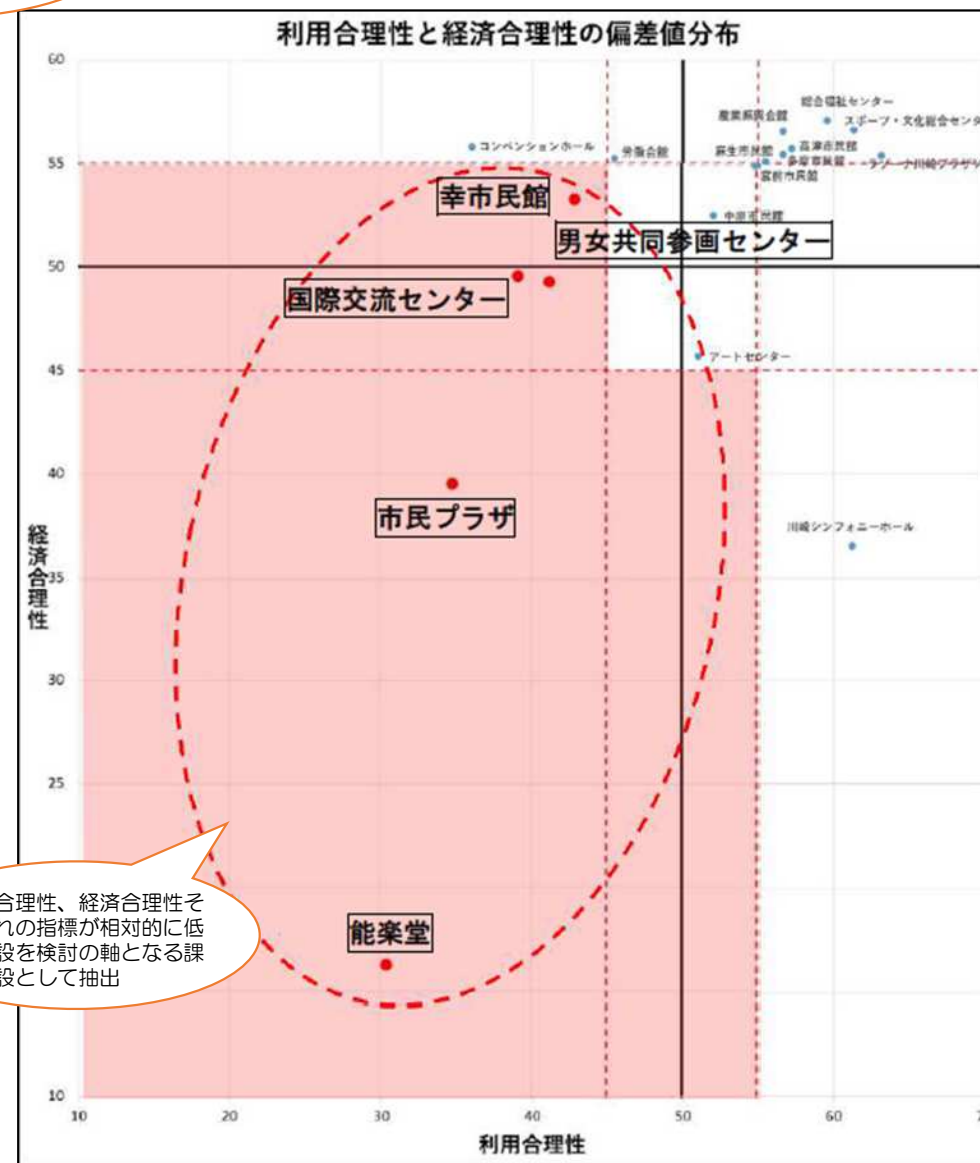
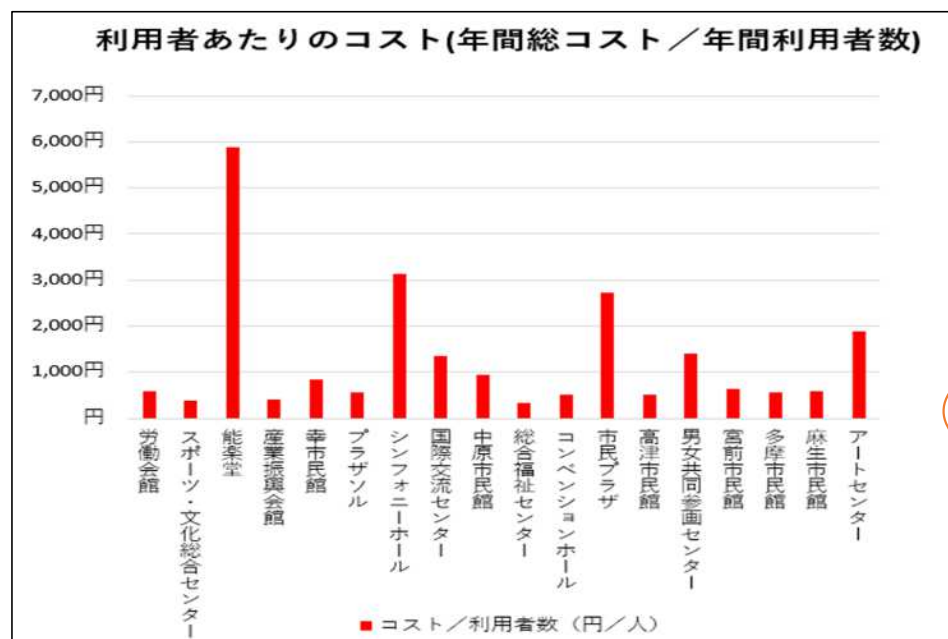
(仮称) 公共ホールの最適化に向けた取組方針案 ～これまでの検討のあらまし～

R7.1 中間報告

- ・検討の起点となる施設を選定するため、**利用合理性（本番稼働率）**と**経済合理性（利用者あたりのコスト）**が相対的に低い施設を抽出しました。
- ・その結果、右下の分布図にあるとおり、**幸市民館、国際交流センター、男女共同参画センター、市民プラザ、能楽堂**の5施設を課題施設としました。



赤部分（本番利用）が少ないほど、練習利用が多いなど、利用合理性が低いとしています。



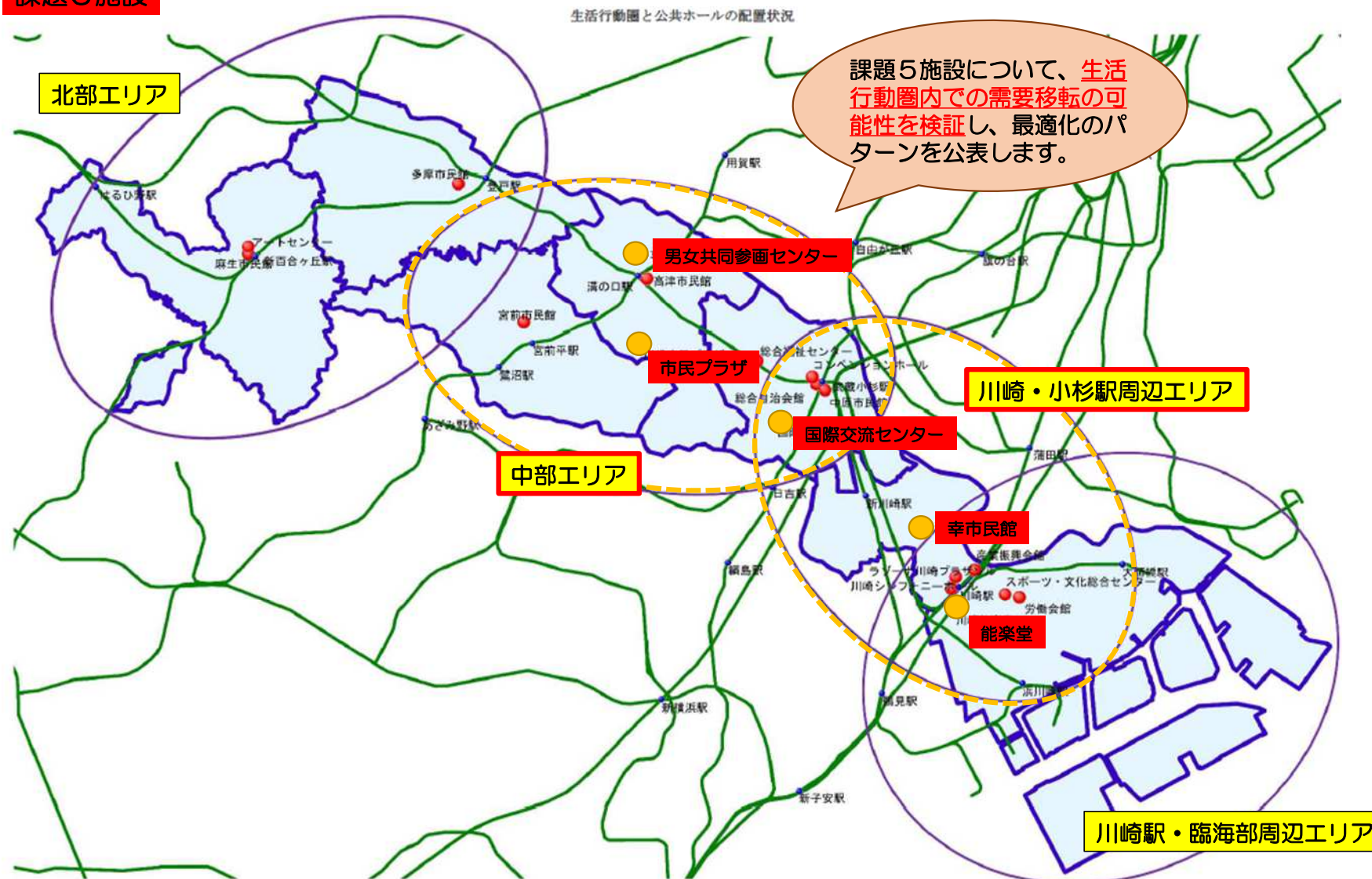
利用合理性、経済合理性それぞれの指標が相対的に低い施設を検討の軸となる課題施設として抽出

(仮称) 公共ホールの最適化に向けた取組方針案 ～これまでの検討のあらまし～

R7.11 取組方針案

- ・課題５施設の機能・規模の見直しを検討するため、**各ホールの需要（利用実態）や、受け入れホールの可能枠（空き状況等）を分析**しました。
- ・本方針は、上記の分析結果を踏まえ、**課題５施設の最適化の方向性**を公表するものです。

課題５施設



ホール機能に係る需要移転パターンを検証する際の条件

【条件 1】

最適化優先度の高い課題施設から順に、「本番・練習」、「休日・平日」、「利用客席数・保有客席数」、「利用用途・保有舞台設備」に応じて、利用コマ数を移転（近傍の施設を優先して移転）

最適化優先度

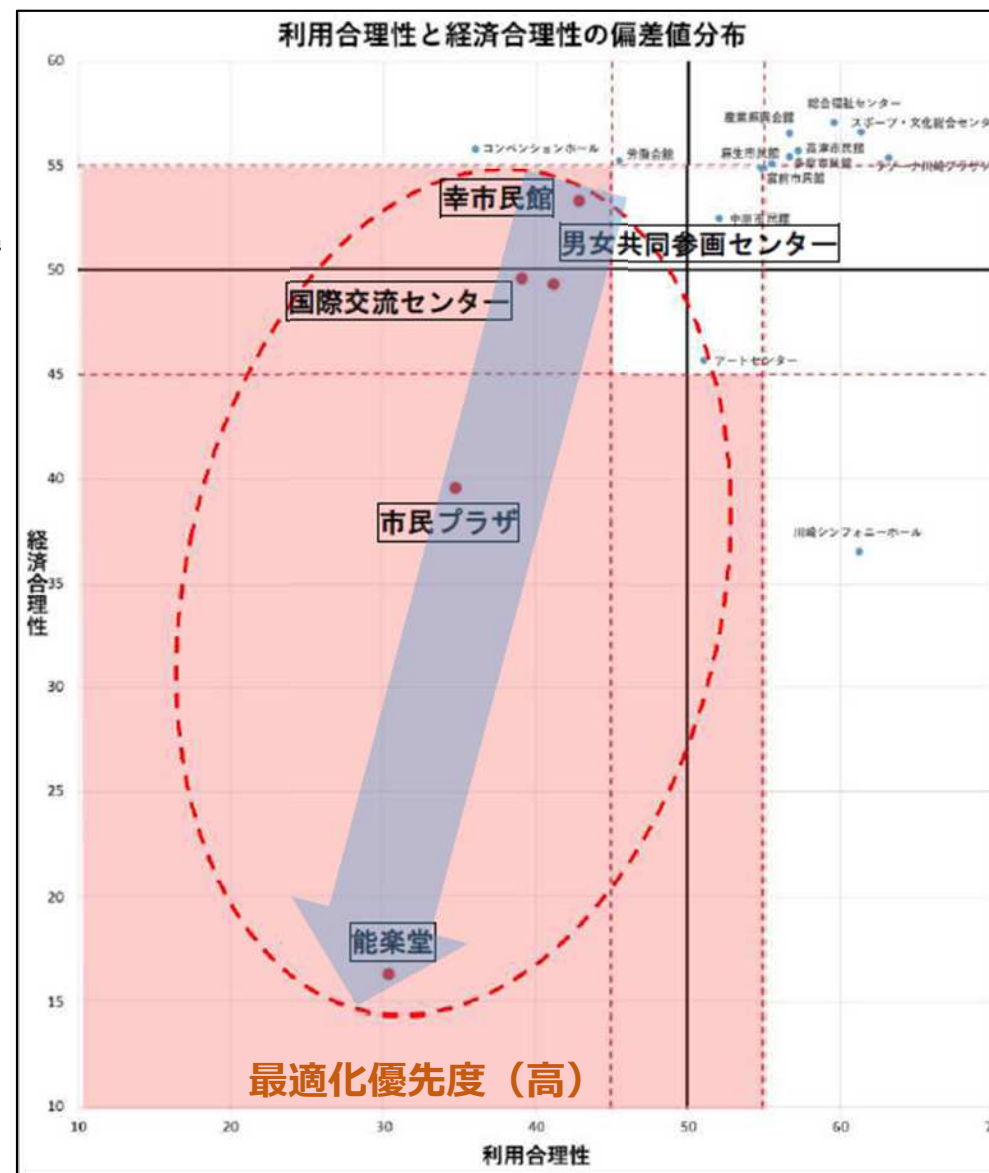
- ①能楽堂 ②市民プラザ ③国際交流センター
④男女共同参画センター ⑤幸市民館

【条件 2】

- ・なるべく多くの課題施設が需要移転できるパターンを確認するため、まずは課題施設以外に需要移転
- ・上記で需要移転ができない課題施設については、他の課題施設にも需要移転

【条件 3】

国際交流センターは 2 つの生活行動圏に属しているため、どちらの生活行動圏にも需要移転可能



～需要移転可能性の検証～

課題施設ごとに利用用途・保有舞台設備と利用客席数・保有客席数を踏まえ、
「休日×本番」⇒「休日×練習」⇒「平日×本番」⇒「平日×練習」の順に需要移転の可能性を検証した。

利用用途	課題施設A (定員500席)										需要受け入れ施設① (定員200席)							需要受け入れ施設② (定員375席)						
	休日×本番										休日×本番							休日×本番						
	適性	設備 適性									適性	設備 適性	受入可否			受入 可能枠	適性	設備 適性	受入可否			受入 可能枠		
			～100	101～200	201～300	301～400	401～500	合計	移転数			利用	適性	需要移転	受入合計			利用	適性	需要移転	受入合計			
音楽	オーケストラ	B	A	0.0コマ	1.9コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	1.9コマ	1.9コマ	B－	B		不可			B	A			1.9コマ			
	吹奏楽	B	A	2.5コマ	0.0コマ	0.0コマ	1.2コマ	0.0コマ	3.7コマ	3.7コマ	B－	B		不可			B	A			2.5コマ			
	合唱	B	A	0.0コマ	1.2コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	1.2コマ	1.2コマ	B－	B		不可			B	A			1.2コマ			
	ピアノ	A	A	24.3コマ	27.4コマ	12.4コマ	7.5コマ	0.0コマ	71.6コマ	71.6コマ	B	B		不可			B＋	B		不可				
演劇・ダンス	演劇・ミュージカル	B＋	A	1.9コマ	8.1コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	10.0コマ	10.0コマ	B＋	A			10.0コマ		B＋	A						
	ダンス	B＋	A	17.4コマ	5.0コマ	2.5コマ	5.6コマ	3.1コマ	33.6コマ	33.6コマ	B＋	A			22.4コマ		B＋	A			2.5コマ			
	バレエ	B＋	A	0.6コマ	1.9コマ	1.9コマ	0.0コマ	1.9コマ	6.2コマ	6.3コマ	B	A			2.5コマ		B	A			1.9コマ			
	幼稚園等生活発表会	B	A	0.6コマ	0.6コマ	1.2コマ	3.1コマ	4.4コマ	10.0コマ	9.9コマ	B	A			1.2コマ		B	A			1.2コマ			
伝統芸能等	日本舞踊・能	B＋	A	2.5コマ	0.6コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	3.1コマ	3.1コマ	B－	B		不可		45.5 コマ	B＋	A			3.1コマ	21.8 コマ		
	邦楽	A	A	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	B＋	A				158 コマ	B＋	A				27コ マ		
	落語	B	A	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	B	A					B	A						
	太鼓	B＋	A	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	B＋	A					B＋	A						
その他	会議・セミナー等	B＋	A	4.4コマ	3.1コマ	5.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	12.4コマ	12.5コマ	B	A			7.5コマ		B＋	A			5.0コマ			
	カラオケ	A	A	0.0コマ	0.0コマ	2.5コマ	0.0コマ	0.0コマ	2.5コマ	2.5コマ	B＋	A					A	A			2.5コマ			
	映画会	B＋	A	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	1.9コマ	1.9コマ	1.9コマ	B	A					B	A						
	展示会	B＋	A	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	B＋	A					B＋	A						
	健康診断	A	A	1.9コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	0.0コマ	1.9コマ	1.9コマ	A	A			1.9コマ		A	A						
											45.5 コマ						158 コマ							
																	21.8 コマ							
																	27コ マ							

375席以上
必要のため、
他の施設へ

～ホール機能に係る需要移転可能性の検証～

●●エリア

本番⇒練習の順で検証

課題施設Aの**休日**の需要移転検討イメージ
同様の検証を、平日も実施

課題施設

課題施設も含めると
ホール機能に係る
全ての需要移転が可能

本番・練習

202コマ

15コマ

16コマ

課題施設A

課題施設B

課題施設C

「本番・練習」、「休日・平日」、「利用客席数・保有客席数」、「利用用途・保有舞台設備」
に応じて、ホール機能に係る需要移転

55コマ

34コマ

31コマ

27コマ

22コマ

2コマ

ホール①

ホール②

ホール③

ホール④

ホール⑤

ホール⑥

利用団体ヒアリングにおける主な意見

令和7年1月の中間報告以降、本市のホールを利用している8団体に対して、ヒアリングを実施すると共に、20団体に対し、メールにて中間報告を行ったことを周知。

(1) ハード面に関する主な意見

- ・市民館ホールは客席数が多すぎる。規模を縮小して防音スタジオを作るなどできないか
- ・市民館を建て替える際、音楽ホールが無くても、音楽練習室があるといい。
- ・使用する楽器などの搬入のしやすさも重要であり、すくらは搬入しやすい。
- ・楽器を置くスペースが必要な利用方法では、客席を減らしてでも舞台を大きくしてほしい。
- ・演目によっては、練習時もホールでの響きを確認しないとイケない。

(2) ソフト面に関する主な意見

- ・ホールを利用目的別に分ける考えはいいと思う。
- ・目的別でホールを分けるのであれば、スペックをどのレベルに設定するかが気になる。
- ・本番利用は比較的駅近の方がお客さんを呼びやすい。アクセスが悪いホールは練習で利用している。
- ・市としても使い勝手の良い民間ホールを誘導したほうが良い。
- ・公共施設として学校の音楽室、教室などが使えるといい。

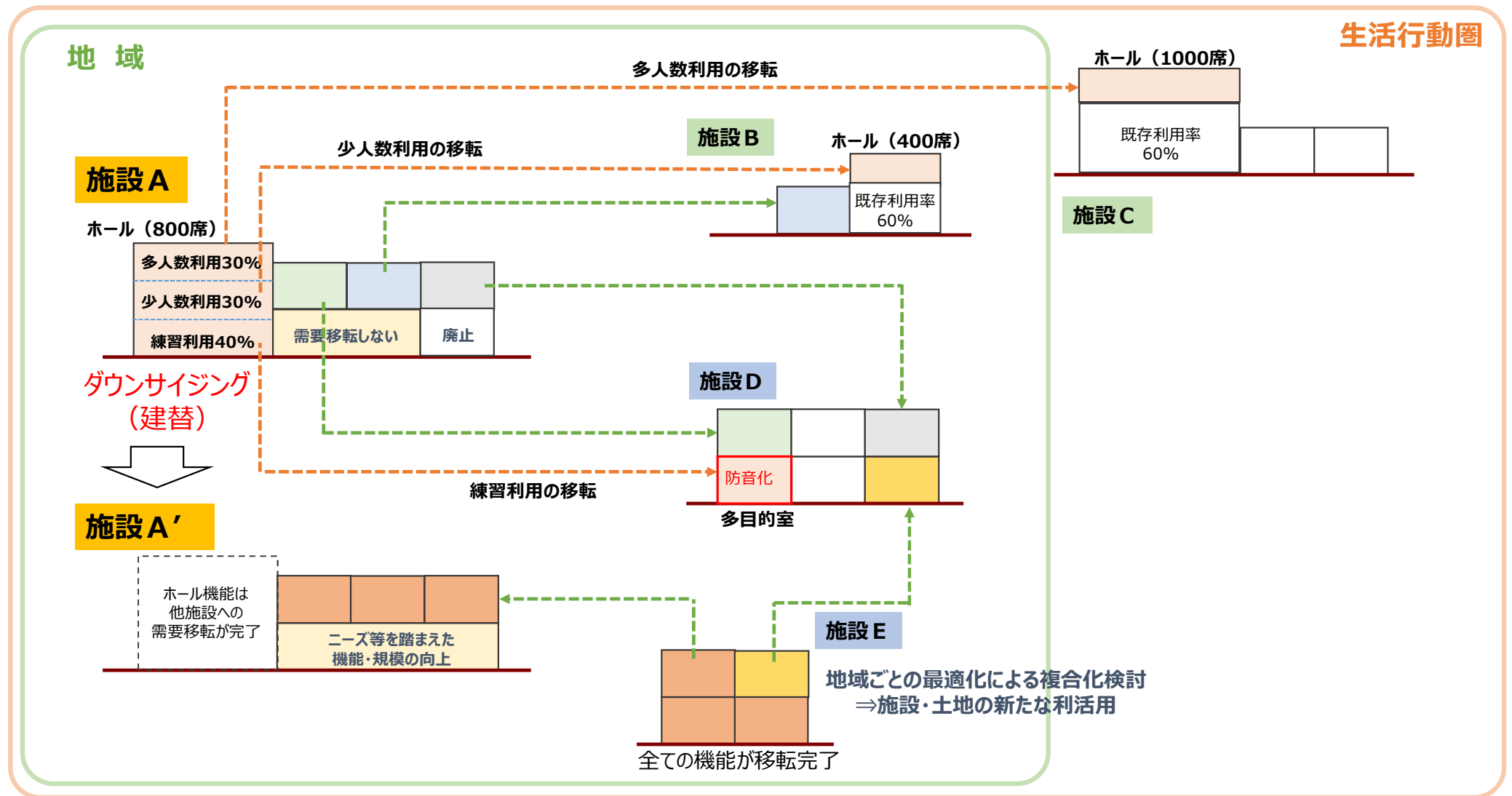
(3) 最適化に関する主な意見

- ・川崎市には中規模のホール施設が少ない。
- ・市民館は各区に1つずつある必要はないと思う。
- ・ミューザ、カルッツと市民館等では、規模も料金も全然違うので、検討する上では分けて考えたほうがいい。
- ・課題施設は潰すのではなく、改善させる検討をしてほしい。
- ・能楽堂を多目的に使えればいい。150席はアンサンブルには最適。そういった工夫はしてほしい。
- ・利用率、コストだけで判断せず、文化としての質を守っていくこと、文化の中身をみていくことが大切。

需要移転等を検討する際には、利用状況等によるデータのみでなく、こうした利用者の実際の声を踏まえながら、将来の最適化に取り組む必要があります。

最適化の全体イメージ

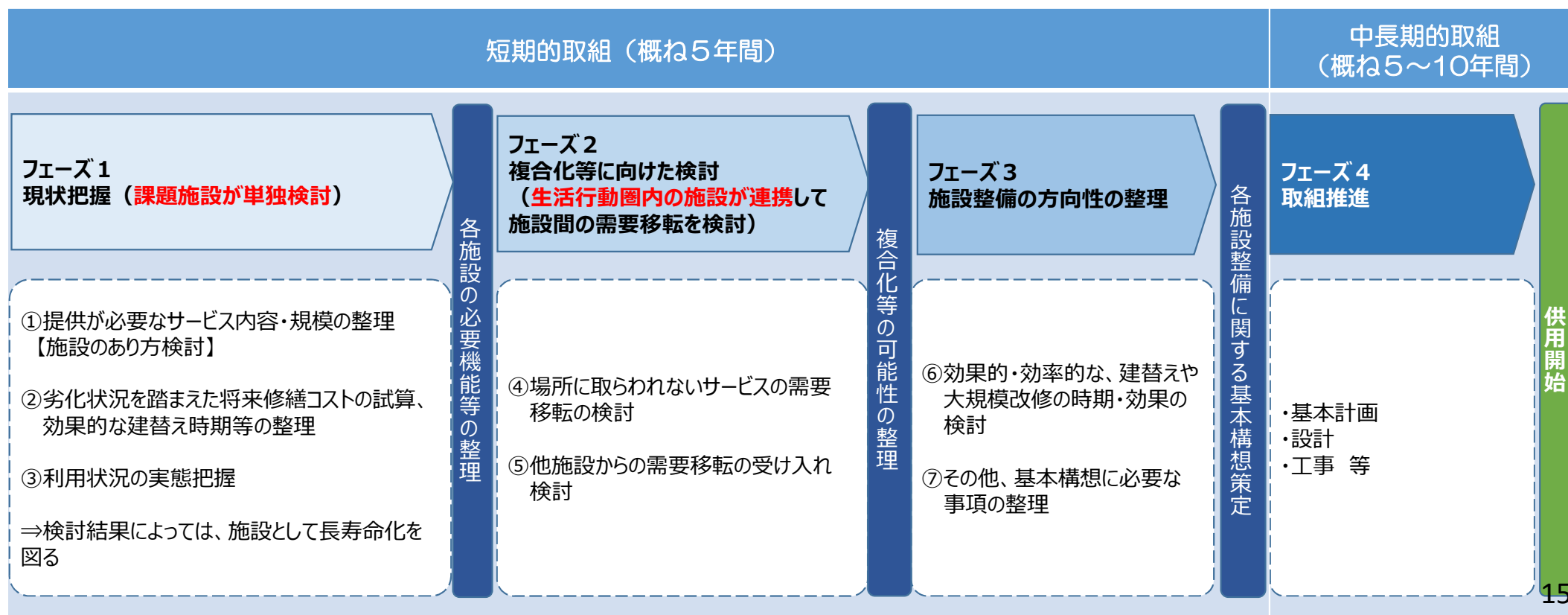
施設の最適化にあたっては、ホール及びホール以外の機能も含めた最適化を考えていく必要がある。



- > ホール機能の需要移転
- > ホール以外の機能 (諸室) の適正配置

- ①施設 A の更新のタイミングで、他の施設に需要移転を検討
- ②ホール機能は生活行動圏内で、機能や利用状況を踏まえて需要移転
- ③ホール機能以外の諸室は、地域ごとの資産保有の最適化の 1 地域内で、機能や利用状況を踏まえて適正配置
- ④需要移転後の施設 A は、他施設との複合化等も含めた検討を行い、施設 A' として建替え

- ・ 今回の検証結果は、利用状況等から機械的に検証したものであり、今後、最適化の取組を進めるにあたっては、ホールだけでなく、ホール以外の機能を含めた「**施設のあり方**」の整理が必要
- ・ 「施設のあり方」により整理された必要な機能・規模などの結果を踏まえ、**他施設への需要移転や複合化・他用途への転換などの可能性・効果**、施設更新のタイミングなどの検討・取組を段階的に進める。
(最短で10～15年後に共用開始を想定)



～今後の取組の進め方～ アウトプットイメージ

Aセンター	今後の取組方針
外観	■ Aセンターについては、以下の点を念頭に施設全体の機能のあり方を検討したうえで、最適化に向けた取り組みを進める。 ✓ 同じ生活行動圏内にある他施設へのホール需要の移転 ✓ 周辺他施設へのホール以外の需要の移転 ✓ 周辺他施設との複合化等 記載内容の詳細について、 今後所管部署と調整を行う。
施設概要	ロードマップ
所 在： ホール規模： m² 席 築 年 数： 年（ 年 月築） 平均年間稼働コマ数（休日／平日）：	標準ロードマップを踏まえ、 今後、各施設における取組ロードマップを整理する